

各位

2026 年 4 月 17 日
株式会社エルテス
(証券コード：3967 東証グロース)

2026 年 2 月期通期 決算説明動画及び スクリプトの公開のお知らせ

「安全なデジタル社会をつくり、日本を前進させ続ける。」をミッションと掲げる、株式会社エルテス（本社：東京都千代田区、代表取締役：菅原貴弘、証券コード：3967、以下「エルテス」）は、個人投資家・機関投資家・アナリスト向けに、2026 年 2 月期通期決算説明動画を公開しましたので、ご報告いたします。



■ご視聴方法

以下、エルテスのコーポレートサイトより、ご覧いただけます。

決算説明動画ライブラリ：<https://eltes.co.jp/ir/library/video>

（スクリプトは、次ページ以降に記載しております）

<参考情報>

「2026 年 2 月期決算短信」は[こちら](#)

「2026 年 2 月期通期決算説明資料」は[こちら](#)

なお、後日、決算 FAQ の公開も予定しております。



[エルテスグループ関連サイト]

デジタルリスク対策サービス一覧：<https://eltes-solution.jp/>

採用情報：<https://eltes.co.jp/recruit>

公式オウンドメディア「エルテスの道」：<https://eltes.co.jp/ownedmedia>

公式 X（旧 Twitter）：https://x.com/eltes_irpr

■決算説明（スクリプト）



株式会社エルテスの 2026 年 2 月期の通期決算の説明を始めます。

取締役副社長の伊藤豊です。どうぞよろしくお願いいたします。

2026年2月期 通期実績



売上高・営業利益ともに過去最高を記録し、業績予想を上回って着地

2026年2月期 通期業績

(単位：百万円)	通期 累計実績	通期業績予想 (2025年5月29日公表値)		修正通期業績予想 (2026年4月10日公表値)	
		予想値	達成率	予想値	達成率
売上高 (①)	8,958	8,200	109%	8,960	100%
営業利益 (②)	431	380	113%	430	100%
営業利益率 (②/①)	4.8%	4.6%	—	4.8%	—

※1：期間は2026年4月10日現在の通期業績予想及び特別損失の計上に関する認識の注記に照らし

© 2024-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード 3967）

1—

まず初めに、サマリーをお伝えします。通期業績の実績です。

4 月 10 日に修正開示も出ておりますが、ほぼ修正開示どおりの着地となっております。

売上・営業利益ともに過去最高を記録し、昨年 4 月・5 月に発表していた当初の業績予想を大きく上回る形で着地しました。これまでの過去最高の営業利益が 2023 年 2 月期の 2 億円でしたので、そこから比べても倍以上を記録しております。

また、営業利益率についても、ここ数年 2%台、1%台と落ち込んでおりましたが、4.8%まで回復しております。

DX推進事業を除く連結の営業利益が計画を上回って着地
DX推進も4Qで大きく回復し、通期黒字で着地

2026年2月期 営業利益実績

（単位：百万円）	第3四半期 累計実績	通期 累計実績	通期 業績予想 ※2026年1月公表値	達成率	通期業績の補足
連結全体	93	431	380	113%	■ DX推進事業除く連結は計画を上回り、 DX推進事業は4Qに大きく回復し、黒字着地
連結 （DX推進除く）	351	404	380~400 （当初想定：370）	106%	■ 全社費用の適正化を進め、DR事業の成長投資 も実行しつつ、業績予想を上回って着地
D X 推 進	▲257	26	▲20~0 （当初想定：10）	—	■ 通期黒字着地も業績の不確実性が大きく、 カープアウトは交渉継続（詳細は別ページに記載）

© 2024-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（証券コード：9367）

2

現在カープアウト交渉中の DX 推進事業を除外した場合どうなのかを見せるスライドです。

3Q 累計時点では、DX 推進が大きく赤字を掘っていましたが、4Q にて大型取引により挽回して通期で黒字着地しております。

連結（DX 推進を除く）についても、順調に利益を積み上げて業績予想を上回りました。コア事業であるデジタルリスク事業への成長投資も実行しながらも、全社費用の適正化を行った結果です。

2026年2月期において、減損損失（274百万円）を特別損失として計上

（カーブアウト関連で201百万円、不採算事業の整理でAIK社36百万円、イーリアルティ社36百万円）

その結果、最終利益は赤字で着地

カーブアウトの検討を開始しているJAPANDX社における特別損失の計上	
背景	カーブアウトに伴う今後の事業計画の見直しが発生したため
影響	ソフトウェア資産の減損損失（201百万円）の発生

**下期偏重・不確実性の高いJAPANDX社を中心とした
DX推進事業のカーブアウトは、最重要課題と位置づけ、検討・交渉を継続中**

© 2024-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（証券コード9367）

3

売上・営業利益・経常利益までは好調であった一方で、最終利益については、特別損失を計上した関係で、赤字転落となりました。

2年連続で期末のタイミングで減損を出しており、純利益が出せていない状態を心苦しく思います。株主の皆様にご心配をおかけして恐縮ですが、ポートフォリオ再編による構造改革、経営改革を推し進めている過程での一時的なもので、だいたい昨年と今回の計上とをあわせて、膿を出し切ったように思いますので、これから期待していただければと思います。

今回減損損失で2.74億円計上しておりますが、JAPANDX社カーブアウト関連で約2億。不採算事業の整理の一環で、警備DXのAIK社と不動産のイーリアルティ社でそれぞれ36百万円の減損を計上しております。

JAPANDX社は、通期黒字で着地しましたが、引き続き上期赤字で下期に偏重しやすく不確実性も高いため、カーブアウトについては最重要課題として交渉を継続中です。

**27年2月期から連結除外となるスケジュールで
1Q期間中での売却を目指し、カーブアウトの継続交渉中。**

※1Q期間中での売却により期初みなしでの連結除外を目指す

カーブアウト検討開始の背景（2026年1月公表）

- 1 収益性、優位性の観点から、デジタルリスク事業をコア事業として、経営リソースの投下を推進（DX推進事業の優先度が下がる）
- 2 下期偏重のJAPANDX社の事業特性が、グループ全体の進捗率を見えにくくしている
- 3 JAPANDX社は、IPOへの意向もあり今後も成長投資を継続、また親子上場の懸念からカーブアウトを以前より想定

カーブアウトの方針

- ▶ JAPANDXグループ全体での売却ではなく、グループ4社を個別に売却交渉を進行
- ▶ 下期偏重（上期に赤字になりやすい）のJAPANDX社の売却を優先的に急ぐ

© 2024-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス（証券コード93667）

4

そのDX推進事業のカーブアウトの進捗についてです。

最短で今期から連結を外れる想定で、と以前お伝えしておりましたが、引き続きそのタイムラインを意識して交渉中です。具体的には1Q期間中での売却を目指し、期初みなしでの連結除外を目指します。

カーブアウトの方針としては、JAPANDXグループ4社をまとめて売却するのではなく、個別に売却する準備を進めています。その中でも、上期赤字の構造を持つJAPANDX社を最優先で売却できるように急いでいます。

1	業績説明/2026年2月期 通期
2	ビジネスアップデート
3	2027年2月期 通期業績予想
4	経営方針のアップデート
5	Appendix

以上がサマリーとなります。ここから、26年2月期の業績説明、ビジネスアップデート、27年2月期の業績予想、経営方針のアップデートの順に説明してまいります。

1

業績説明

2026年2月期 通期



決算ハイライト



売上高・EBITDA・営業利益ともに過去最高
ARRは伸び悩むも、経営管理の強化により利益体質に

グループ連結

2026年2月期
業績
(通期累計)

売上高

89.5億円

前年同期比 +22%

EBITDA ※1

9.2億円

前年同期比 +51%

営業利益

4.3億円

前年同期比 +362%

コア事業

デジタルリスク事業
KPI
(期末時点)

ARR

25.1億円

前年同期比 +1.2%
前四半期比 +1.0%

内部脅威検知サービス ID数

29.7 万 ID

前年同期比 ▲6.0%
前四半期比 +0.2%

※1 EBITDA = 売上総利益 - 売上費用 - 減価償却費 - 減価償却費の戻金 - 固定資産売却益(損失)

あらためて決算のハイライトです。

売上・EBITDA・営業利益ともに過去最高で、それぞれ前年同期比で、+22%、+51%、+362%と大きく成長しました。

コア事業であるデジタルリスク事業の KPI としての ARR、内部脅威検知サービス IRI の ID 数については、前期の期初にあった解約による落ち込みを取り戻す形で ARR については微増まで挽回しました。ID 数についてはまだ前年同期割れをしておりますが、取り返しつつある状況です。

業績説明 | 2026年2月期 通期業績ハイライト



売上・EBITDA・営業利益ともに過去最高で、当初業績予想から上振れて着地
カーブアウト交渉中のJAPANDX社等による特別損失が影響し、純利益は大幅にマイナス着地
 (ソフトウェア資産の減損等)

(単位: 百万円)	2025年2月期 通期実績	2026年2月期 通期実績	前年同 期 比	通期業績予想	
				2025年5月29日公表値 (進捗率)	2026年4月10日公表値※2 (進捗率)
売 上 高	7,317	8,958	+ 22.4 %	8,200 (109.3%)	8,960 (100.0%)
EBITDA※1	608	923	+ 51.6 %	750 (123.1%)	930 (99.3%)
営業利益	93	431	+ 362.3 %	380 (113.5%)	430 (100.3%)
純 利 益	▲860	▲168	—	170 (—)	▲170 (—)

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード: 93967)

※1: EBITDA = 売上・営業利益 + 減価償却費 + 売却損(益) + 減価償却費の繰上償却等
 ※2: 当社は2026年4月10日現在の通期業績を公表する旨の修正及び特別損失(注)により修正したものと見なす

純利益も含めた形での決算ハイライトです。

純利益のところが、特別損失の影響で、当初の業績予想の 1.7 億円の黒字から大きく赤字に転落し
 1.68 億円の赤字となりました。

業績説明 | 2026年2月期 通期業績ハイライト (セグメント)



	2026年2月期 通期実績 (前年同期比)	業績予想 2026年2月期 (進捗率)	ポイント
連 結	売上高 8,958百万円 (+1,641百万円)	8,200百万円 (109.3%)	▶ 売上高・営業利益ともに過去最高
	営業利益 431百万円 (+338百万円)	380百万円 (113.5%)	
デジタルリスク 事業 (DR事業)	売上高 2,744百万円 (+230百万円)	2,800百万円 (98.0%)	▶ IRI/AIシールドへの投資を前倒して実行 ▶ 新規MRR獲得が想定を下回るもSR領域も シフト案件が売上高伸長に貢献
	営業利益 991百万円 (+71百万円)	1,050百万円 (94.5%)	
AIセキュリティ 事業 (AIS事業)	売上高 2,222百万円 (+601百万円)	1,800百万円 (123.5%)	▶ 警備保障領域が底堅く推移し、国際的大型 イベントが業績貢献
	営業利益 38百万円 (+79百万円)	20百万円 (192.6%)	
DX推進 事業	売上高 2,067百万円 (+203百万円)	1,800百万円 (114.9%)	▶ 契約進行中だった大型案件を4Qに計上 ▶ SES人材の獲得が稼働に推移
	営業利益 26百万円 (+16百万円)	10百万円 (266.2%)	
スマートシティ 事業 (SC事業)	売上高 2,052百万円 (+568百万円)	1,800百万円 (114.0%)	▶ アクター・社業績が好調に推移 ▶ 着実に不動産売買実績を積み上げ、事業 開始から初のセグメント利益黒字化
	営業利益 11百万円 (+122百万円)	0百万円 (—)	
全社費用 (共通管理)	637百万円 (▲48百万円)	700百万円 (91.1%)	▶ 経営管理・コスト適正化が奏功

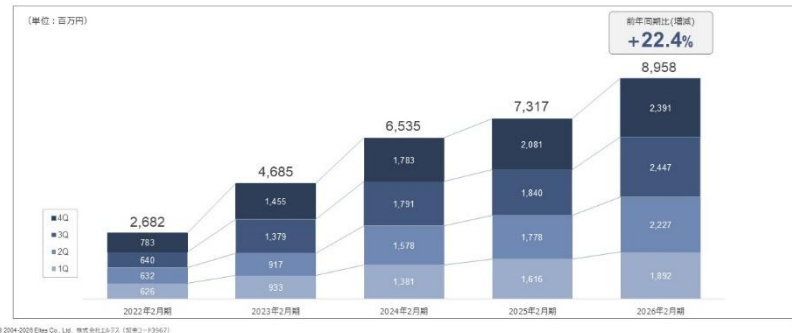
© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード: 93967)

セグメント別の通期業績です。

コア事業であるデジタルリスク事業が、業績予想の達成率が 100%を下回っていますが、IRI や AI シールドへの投資を前倒して実行し、成長投資を行った部分も影響しております。その他事業についてはおおむね、業績予想を上回る形で着地しております。

全社費用の部分も経営管理・コスト適正化の取り組みがうまくいっており、業績予想よりも 1 割弱の削減ができており、利益の上振れに貢献しております。

連結売上高も過去最高を記録（21期連続増収）



10

売上高の推移です。連結売上も過去最高を記録。ちなみに 21 期連続増収です。

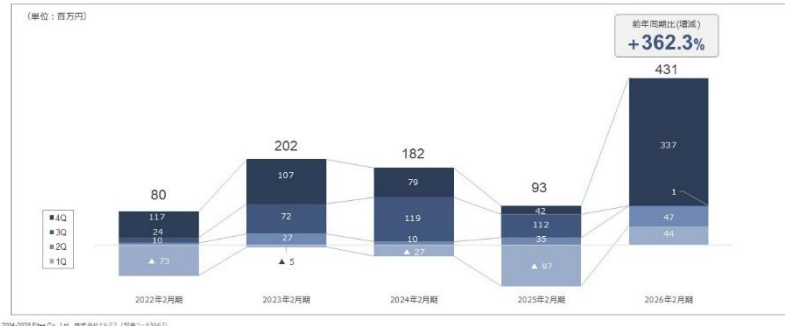
事業全体の収益力改善が寄与し、EBITDAも大きく伸長



11

EBITDA の推移です。

経営管理強化・全社費用適正化が奏功し、前期から大きく伸長し、過去最高記録



© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード: 93967)

12

営業利益の推移です。

EBITDA、営業利益ともに4Qに偏重しているように見えますが、JAPANDX社が1-3Qで大きく赤字、4Qで大きく挽回している関係で、そのように見えるだけで、JAPANDX社を中心としたDX推進事業を除けば、安定的にクォーターごとに利益を積み上げられる構造になっています。

2

ビジネスアップデート

2026年2月期 第4四半期期間(12月～2月)

続いて4Q期間のビジネスアップデートです。

ビジネスアップデート | デジタルリスク事業のKPI進捗



© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（証券コード9367）

14

デジタルリスク事業の KPI の進捗です。

ARRとIRIのID数ともに、半年前に比べると、ARRで5000万円の積み上げ、ID数については1万IDを上乗せしてきてはいますが、目標には届いておりません。

内部不正対策のインターナルリスク領域では、既存顧客の大手企業からの追加受注がありました。また、マーケティング専任チームを3Qに結成した関係で、4Q期間ではイベント登壇、展示会出展などの活動が増えております。

ソーシャルリスク領域では、AIの活用で業務効率化・人件費削減による利益創出、画像リスク検知サービスの開始、AIガバナンスの新サービスの開始など新たな取り組みを行っております。

ビジネスアップデート | デジタルリスク事業の売上高・セグメント利益



- ▶ 新規案件によるMRRの積み上げには苦戦するも、IRIで既存クライアントからの追加発注（ID数増加）が業績貢献
- ▶ IRIやAIシールドの成長領域に対して27年2月期以降を見据えた投資を積極的に行い、セグメント利益は成長



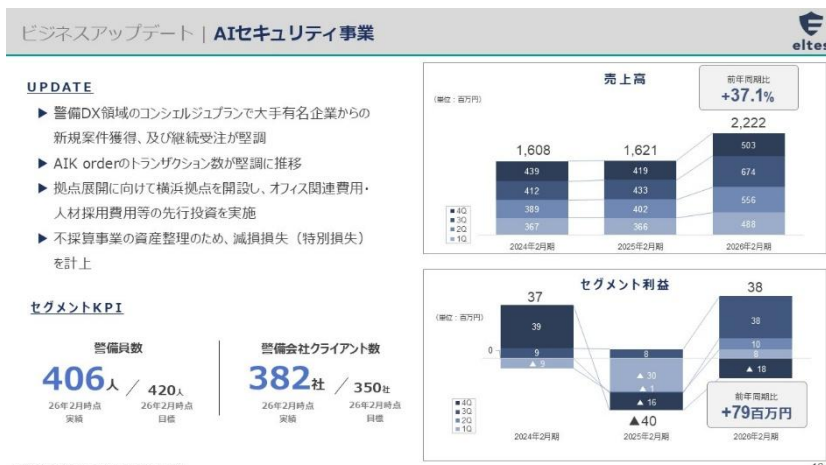
© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（証券コード9367）

15

売上とセグメント利益です。

前年同期比で、それぞれ+9.2%、+7.7%の成長となりました。

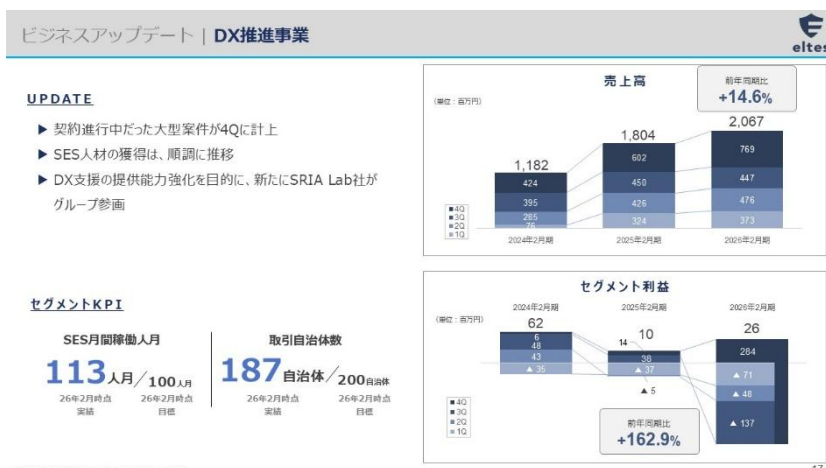
コア事業と位置付けるからには、ここの成長率をもっと上げていきたいと考えており、経営リソースの集中、人材の強化など成長投資を継続していき、成長率を上げていく取り組みをしていく計画です。



続いて AI セキュリティ事業です。AI セキュリティという名前がややこしいのですが、こちら警備関連の事業セグメントです。

前年同期比で売上+37%、セグメント利益も前期赤字から+79 百万円となり黒字浮上となりました。

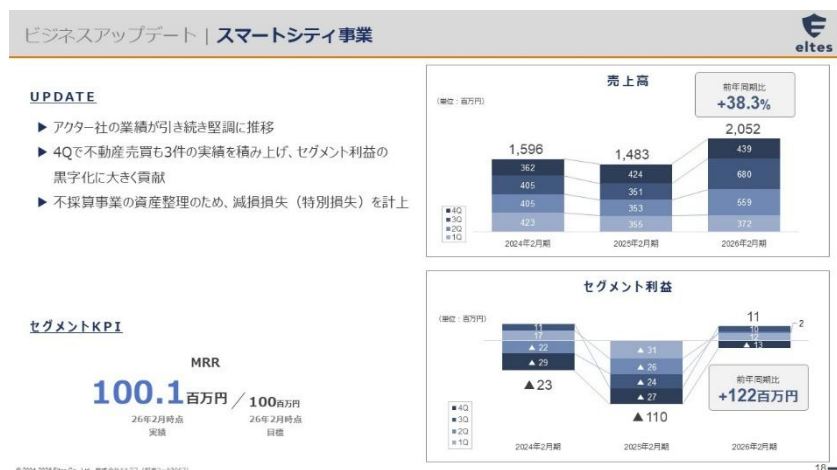
警備 DX の取り組みとして、警備会社のネットワークを活用して案件を受注するコンシェルジュランが堅調で、大手有名企業からの新規・継続案件が続いております。拠点についても横浜拠点を開設しており、先行投資を行っています。一部ソフトウェアの不採算事業があり、資産整理のため減損損失を特別損失で計上しております。



次に DX 推進事業です。こちらはカーブアウトを交渉中の事業セグメントですので、簡単に触れる程度とします。

3Q まで大きく赤字でしたが、4Q で大型取引があり、黒字に浮上しました。

安定的にシステム開発人材を提供する SES 事業（プレイネクストラボ社、GloLing 社の 2 社）については月間稼働人月も目標を上回る形で堅調です。IT 人材の獲得の目的で SRIA Lab 社がプレイネクストラボ社に合流する形でグループインしております。



最後に、スマートシティ事業です。こちらは不動産管理・売買、そして地方銀行向けの DX を行うアクター社が含まれるセグメントです。

こちらのセグメントは 2 年連続赤字のところから、ようやく黒字浮上しております。

アクター社が好調で利益貢献しております。（4 Q では）不動産売買も 3 件成約し、セグメント利益の黒字化に貢献しております。一部、不動産活用の不採算事業の資産整理があり、減損損失を特別損失として計上しました。

経営戦略の浸透を目的とした多角的なコミュニケーションを実施

【従業員向け】全社員・キックオフイベントの実施

株式会社エルテスの従業員を対象に、経営・事業戦略方針の浸透と具体的な実施計画の共有を目的とした全社イベントを2回にわたり対面開催



全社員で描く、時価総額100億円超の変革へのロードマップ
オウンドメディア「エルテスの道」
「全社員で描く、時価総額100億円超の変革へのロードマップ」
<https://eltes.co.jp/ownedmedia/2026/0302/>

【個人投資家向け】会場開催のIRセミナーへの登壇

2026年1月25日にKabuBerryLab主催の個人投資家向け説明会に登壇
伊藤豊副社長による会社紹介と個人投資家からの質疑応答を実施



Kabu Berry Lab
「書き起こし」エルテス(3967)IRセミナー質疑応答 2026.1.25
https://note.com/kabuberry_/n/m17437163225e

© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード: 3967)

19

その他の活動の紹介です。

社内で経営戦略・事業戦略方針の共有・浸透を目的として全社イベントを開催し始めました。社内向けに時価総額 100 億円に向けた変革のロードマップを共有するなどのセッションもやっております。

また、個人投資家向けの IR セミナーにも登壇しております。私自身が「個人投資家の皆様から直接どう見えているのか」「どのあたりが気になるのか」など、たくさんのフィードバックをいただきましたので、経営に活かして IR 開示等にも反映させていきたいと考えております。



続きまして、2027 年 2 月期の業績予想です。

カーブアウトが実行される前提に、売上高は前期を下回る想定
営業利益はオフィス移転の一時費用を織り込みつつ、過去最高を更新する計画

(単位：百万円)	2026年2月期 実 績	2027年2月期 業績予想	前 期 比	POINT
売上高	8,958	8,500	△ 5 %	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 長期的な目標での成長事業への投資やオフィス移転の影響で、営業利益は微増 ▶ カーブアウトによる連結除外やオフィス移転等の一時費用を除く、成長事業への投資を含めても+28%のオーガニック成長を見込む（詳細は次ページに記載） ▶ オフィス移転による一時費用を除く全社費用の適正化や、各事業の収益性向上を目指す
営業利益	431	460	+ 6 %	
営業利益率	4.8%	5.4%	+ 0.6 ポイント	
純利益	△ 168	100	—	<p><補足事項></p> <p>カーブアウトの遂行状況によって、業績予想の修正可能性があります。ただし、DX推進事業のカーブアウトがすべて完了された場合でも、売上高は減少するものの、営業利益は同水準で推移する見込みです。</p>

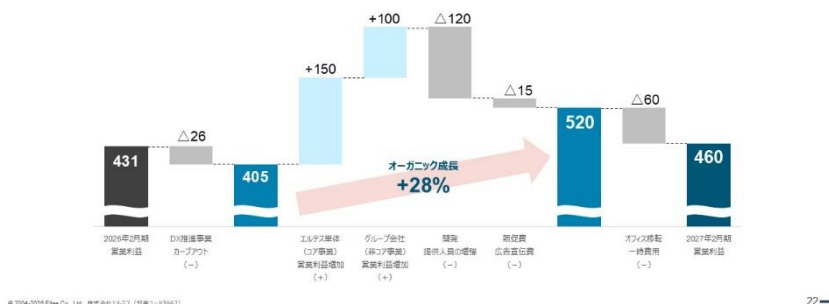
© 2024-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（証券コード：9367）

21

通期業績予想としては、DX 推進事業のカーブアウトが実行される前提で作成しております。そのため、売上高については、前期を下回る 85 億円を予想。営業利益については、オフィス移転の一時重複コストが発生することも見込みつつも、過去最高を更新する想定です。営業利益率はさらに改善し 5.4%となる見込みです。

なお、純利益については、事業ポートフォリオの再編まわりで特別損益が発生する可能性があり予想をしにくい部分があり、保守的に見込んでおります。

カーブアウト要因・一時費用を除き、+28%のオーガニック成長を見込む



営業利益の増減についての補足説明です。

左から、26年2月期の実績4.31億円から右の27年2月期の予想4.6億円がどのような増減で成り立っているのかを示しています。

まず、DX推進事業のカーブアウトの影響で前期計上した26百万円の利益分がなくなる想定ですので、継続事業としては、405百万円を出発点として考えます。

コア事業の営業利益増加で+1.5億円、グループの営業利益増で+1億円、人材投資でマイナス1.2億円、販促・広告の増加でマイナス15百万円の結果、5.2億円の着地となります。この部分がいわゆるオーガニック成長と言えと思いますが、+28%成長を見込みます。

そこから、オフィス移転を1Q中に予定しており、現オフィスと新オフィスの家賃が重複する期間が発生し、60百万円ほど一時的な追加費用が発生します。

その影響を加味すると、27年2月期の営利が4.6億円となる想定です。

2027年2月期 業績予想 2027年2月期 通期業績計画 (セグメント)					
	2026年2月期 実績	2027年2月期 計画	差異	ポイント	
連結	売上高 8,958百万円	8,500百万円	(▲458百万円)	▶ カーブアウトによる売上高は前期を下回りつつ 営業利益は成長路線で計画	
	営業利益 431百万円	460百万円	(+28百万円)		
デジタルリスク 事業 (DR事業)	売上高 2,744百万円	2,900百万円	(+155百万円)	▶ 収益性強化のため、開発人員・提供人員の 増強と販促費・広告費への投資に注力	
	営業利益 991百万円	950百万円	(▲41百万円)		
AIセキュリティ 事業 (AIS事業)	売上高 2,222百万円	2,400百万円	(+177百万円)	▶ 大型イベント需要の取り込みと立ち上げた 新拠点により事業を推進	
	営業利益 38百万円	75百万円	(+36百万円)		
DX推進 事業	売上高 2,067百万円	670百万円	(▲1,397百万円)	▶ カーブアウトする前提としつつ、短期的要因で 一部の売上は取り込むことを想定	
	営業利益 26百万円	0百万円	(▲26百万円)		
スマートシティ 事業 (SC事業)	売上高 2,052百万円	2,530百万円	(+477百万円)	▶ 好調なアクター社による継続成長と買取再販 による売上増を見込む	
	営業利益 11百万円	75百万円	(+63百万円)		
全社費用 (共通管理費)	637百万円	640百万円	(+2百万円)	▶ オフィス移転に伴う期間重複コストとして一時費用 60百万円を見込むも全社費用スリム化で抑制	

© 2024-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード: 93567)

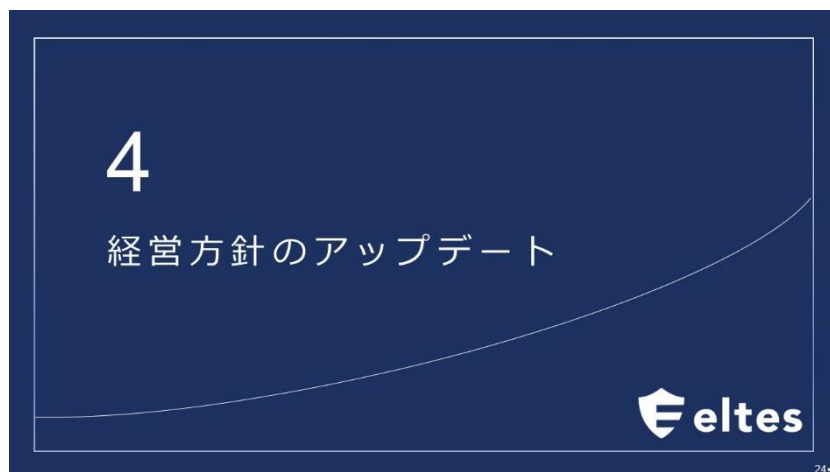
23

通期業績予想の根拠となるセグメント別の計画です。

コア事業であるデジタルリスク事業は、来期以降のさらなる売上成長に備えて、人員増強を中心とした成長投資を実施するため、減益となる計画です。

DX 推進事業はカーブアウトを前提としつつも、短期的な要因で、一部グループ会社が連結に残る部分があると想定して、一部取り込む想定で計画しています。

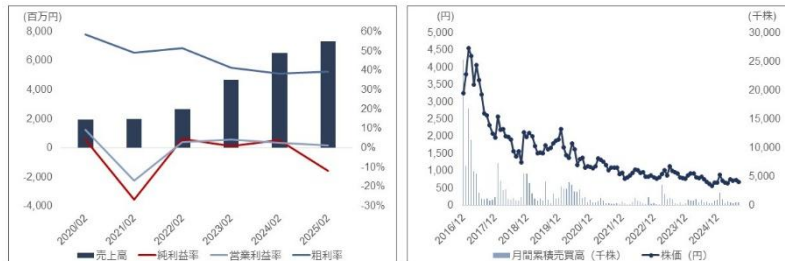
全社費用については、オフィス移転の重複コスト 60 百万円を吸収してもなお、前年同水準に抑えるように、費用スリム化を計画しています。



24

最後に経営方針のアップデートです。

- ▶ 売上高は右肩上がりの成長も、粗利率は低下し、営業利益率も低迷。子会社業績が純利益にも影響
- ▶ 結果として、時価総額は右肩下がり、ピーク時の200億円台から40億円台を推移
- ▶ 東証グロース市場改革もあり、2030年までに時価総額100億円超への変革が急務



© 2004-2025 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルテス (証券コード: 93967)

25

引き続き、振り返りと現状認識です。

売上高は右肩上がりで成長してきましたが、営業利益率は低迷し、のれん等の減損もあり、純利益も赤字転落する期がありました。今期も赤字転落となっておりますが、こうしたボラティリティが大きく、そのような要因もあって株価は低迷してきたと認識しております。

去年の10月から、ポートフォリオの再編など企業変革に向けた経営方針を新たに掲げて、企業変革に取り組んでおります。少しずつ結果も出てきており、2026年2月期についてはガイダンスで出していた営業利益を上回る形で着地するなど、明確に会社が変わってきている部分はあると思います。株価に反映されるには少し時間がかかると思いますが、粘り強くやっていきたいと考えています。

3カ年経営計画を実現するコンセプト

Eltes Lean Transformation ～量から質へ～

最重要指標を営業利益（額）から営業利益率（率）へ

少数精鋭のプロフェッショナル人材が集う

ムリ・ムダ・ムラを排除した生産性の追求

資本効率を意識した筋肉質なバランスシートへ

2029年2月期 財務指標目標

営業利益率 12%以上
(2026年2月期 4.8%)
営業利益 900百万円
(2026年2月期 431百万円)
自己資本比率 40%以上
(2026年2月期 26.3%)

© 2004-2029 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（国庫コード93667）

20

中期経営計画をローリング方式でアップデートしていく形に変更しておりますが、改めて3年後の2029年2月期の財務指標目標を定めて、中期経営計画を準備しております。今回はその頭出しだけさせていただきます。

向こう3年での経営計画のコンセプトは、「Eltes Lean Transformation～量から質へ～」です。

最重要指標を営業利益額から営業利益率へ変えていきます。少数精鋭のプロフェッショナル人材が集う会社へ目指していきます。ムリ・ムダ・ムラを排除して生産性追求します。資本効率を意識した筋肉質なバランスシートをつくっていきます。その結果、営業利益率を前期 4.8%から 12%以上へ、営業利益額も前期の 4.3 億円から 9 億円へしていきます。

自己資本比率も前期 26%から 40%以上へ目指します。という目標を 2029 年 2 月期までに実現を目指します。

Eltes Lean Transformation を推進する7つの重点施策

1 成長事業であるIRI事業の拡大	高い収益性を持つ成長事業の拡大で、全体的な収益性を高める
2 新たな成長事業の育成	成長が鈍化するSR事業のアセットを活用した成長事業の育成
3 ポートフォリオ再構築	一部事業のカーブアウトも視野に入れて、高収益事業中心のポートフォリオ変革
4 規律ある財務戦略の実行	カーブアウトによる有利子負債の圧縮や、グループ全体のバランスシートの強化
5 経営戦略に応じた人的資本戦略	デジタルリスク事業の価値を創るプロフェッショナル人材の育成と活躍できる環境整備
6 市場との対話（IR）強化	セキュリティ銘柄としての認知とともに、インタラクティブな対話でファン投資家獲得
7 オペレーショナル・エクセレンス	提供価値最大化視点での、事業運営、業務プロセスの抜本的な見直しで収益性を向上

—— 3か年経営計画の詳細は4月中に発表予定 ——

© 2004-2020 Eltes Co., Ltd. 株式会社エルトス（証券コード9367）

27

そのための7つの重点施策を準備し、一部すでに着手し始めております。

1つ目、「成長事業であるIRI事業の拡大」、2つ目「新たな成長事業の育成」ということでソーシャルリス（SR）事業のアセットを活用した新規事業・新規領域を育成していきます。

3つ目、「ポートフォリオ再構築」ということで進行中のDX推進事業のカーブアウトはもちろん、それ以外も高収益事業中心のポートフォリオをつくっていくことを進めていきます。

4つ目、「規律ある財務戦略の実行」ということでグループを再編していく中で有利子負債の圧縮を進めていけると考えており、バランスシートを強化していけると考えています。

5つ目、「経営戦略に応じた人的資本戦略」ということで、デジタルリスク事業をコア事業とする以上、価値の高いプロフェッショナル人材を中心として組織・人事の環境をつくっていくことを目指していきます。

6つ目、「市場との対話（IR）の強化」ということで、色々と多角化してしまったところからピュアなセキュリティ銘柄としての認知を取っていくことを中心としてインタラクティブな対話を投資家の皆さんとしていきたいと考えています。

7つ目、「オペレーショナル・エクセレンス」ということで、全体に関わる場所でもありますが、顧客への提供価値最大化という視点で事業運営・業務プロセスを抜本的に見直し、このようなことで収益性を向上させていきます。当たり前のことを当たり前にやっていくということで伸びしろがあると感じています。

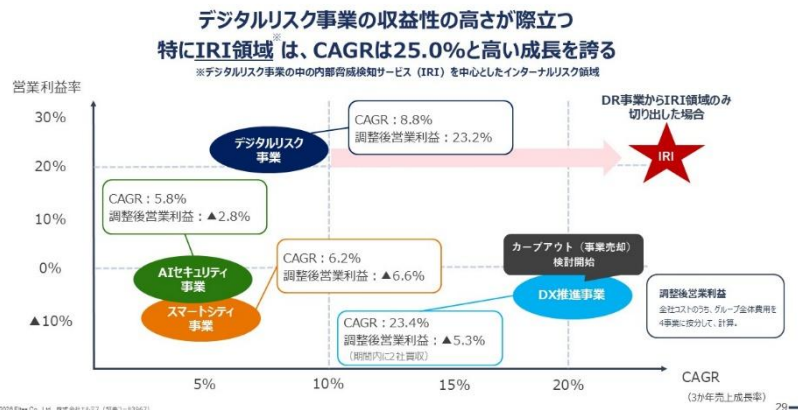
**多角化して凡庸化した部分を思い切って再構築（撤退・縮小）し、
エンブラ向けリカーリング収益中心の独自性・優位性のあるコア事業中心の
デジタルリスク／セキュリティ銘柄として市場から再評価・認識されることを目指す**

なぜ株価が低いのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・多角化したことで何の会社かわかりにくくなっている ・独自性・優位性のある高利益・高成長・市場シェアNo.1[※]の「宝」事業（IRI）があるのに隠れてしまっている（隠れセキュリティ銘柄） ・エンブラ向けリカーリング収益中心で強固な基盤のコア事業があるのに、他のセグメントが利益率を押し下げて凡庸な会社に見えてしまう ・減損処理や業績の下方修正も頻発し市場からの信頼・注目が低下
こうすれば株価上がるはず	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルリスク／セキュリティ領域に特化したセキュリティ銘柄としてリブランド ・ソーシャルリスク領域も炭上加えて認知・情報戦対策にも拡張 ・市場シェアNo.1（UEBA運用監視サービス市場）[※]のIRIの事業成長をさらに加速して強化 ・赤字セグメントからの撤退・売却を実行し、全社利益率を向上（特に四半期の下期重要要素の大きい事業からの撤退は急務） ・予実管理や計画策定の精度を上げるとともに、エンブラ向けリカーリング収益中心のコア事業に集中することで利益のボラティリティを排除

※出典：ITRI/ITR Market View：エンブレット・セキュリティ対策型／情報漏洩対策型SOCサービス市場 2025,UEBA運用監視サービス市場：ペンタートップ上巻第4章（2024年度）

こちらは（2025 年）12 月時点に公表している元々の経営方針のアップデートです。

引き続き企業価値向上に向けた変革が急務という認識です。多角化して凡庸化した部分を思い切って再構築します。コアとなる事業は、エンタープライズ向けのリカーリング収益中心で、とても独自性・競合優位性のあるデジタルリスク事業にしていきます。そのような結果、改めてデジタルリスク／セキュリティの銘柄として市場から再認識・再評価されることを目指していきます。



ポートフォリオの再編についても12月に発表したものを再掲しています。

引き続き3Qまで大きな赤字を出しているDX推進事業セグメントのカーブアウトを意思決定して推進中です。それ以外の事業についても、このような営業利益率や成長率の観点で常に見直し、高い成長性・収益性のあるポートフォリオを実現していくことを継続して目指してまいりたいと考えております。

以上をもちまして、エルテスの2026年2月期の通期決算説明を終わりたいと思います。

引き続き、応援のほどよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。